

第17回 文化・産業のまち部会 会議録

1 開催日 平成29年10月24日（火）

2 場所 新見市役所3階 第5委員会室

3 出席状況 出席8名

部会長	森田 寿	出席	副部会長	水地 秀壽	出席
委員	森岡 繁信	出席	委員	今田 一成	出席
委員	三上 雄二	出席	委員	多賀 紀征	出席
委員	逸見 孝明	出席	委員	田原 裕之	出席

4 事務局出席者

総務部協働推進課 2名

5 傍聴者

なし

6 議事内容

1 開会

2 あいさつ

○部会長挨拶

3 協議

○「農林水産業におけるブランド力の向上（視察）」について、意見交換した。

- ・島根県邑南町は人口1万2千人の町だが、同町内にある観光協会直営店「里山レストラン（あじくら）」は年間9万人の来客がある。
- ・「しょうが」を大量生産している地域もあり、大事なのは、その土地の気候風土に合ったものを生産することである。
- ・飛騨高山に行ったが、ヨーロッパ系の白人系の客が多い印象である。また、町中に信号機がなく、観光客を最優先した町作りがなされていた。
- ・参考になる視察先があれば、また、情報提供してもらいたい。

○「教育・文化（主に「新見高校の再編）」について、意見交換した。

- ・孫が高梁の高校へ行っている。理由は硬式野球部があるからである。
- ・進学や就職で市外転出ばかりになると文化も廃れることになる。いい

大学を出て、いい会社に入るという考えから脱出しないといけない時代である。

- 大学進学だけなら県南の高校が有利ではないか。高校に特長を持たせて魅力アップを図る必要がある。
- 高校教員の配属の傾向として、地理的要因により、新見高校は高梁高校に比べ新採用教員が多い。
- 18歳選挙権が導入されており、18歳自身がしっかり将来を考えることが大事だが家庭での話し合いが足りていないと思う。
- 何万種とある職業から選択することとなるが、情報がなくイメージが湧かない。学校ではできない情報もしっかり提供できる機会が大事。
- 自分は勝山高校出身だが、就職情報は勝山のことが中心となるため、就職先や進路も必然的に勝山ということになる。
- 高校が無償化されれば、私立か公立かの区分は関係なくなる。駅からバスを出すなどの交通の便をよくすることも大事である。
- 「教育・文化」という内容も多岐にわたるので、テーマを絞った議論が必要だと思う。
- 小規模校（特に幼児）では一人に一つずつ物が与えられているため、「待つ」とか「我慢する」とかが教えられないのではと思う。
- 就職に関しては、現在、少ない人数を企業が奪い合う状況である。
- 新見高校は、地理的要因もあり先生が若い。しかし若い人にもいいところがあり、動きが軽いし面倒見がいいという側面もある。
- 県南の高校へ行っても必ずしも伸びるとは限らない現実もある。
- 中学校では職場体験を行うが、将来何になりたいかを決めている子は少ない。いろいろな情報を集めて提供して、自分で考えさせることが大事。中学校での「出前授業」が始まったようだが非常にいいことだと思う。
- 実際中学校との交流事業など様々な特色作りに取り組んでいるが、一般の方が知らない。HPや市報などで発信しているが、遠慮せずにしっかり情報発信することが大事である。
- 哲多中、南中の生徒の県南への進学率が高い。理由は兄弟が行っているからとか多種・多様な部活や科目が多いことなどが要因であり、決して新見高校を避けているということはない。
- 12月までには、教育・文化のまとめを行いたいと思う。